

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑰

- 男性 / 21歳
- 職業/年次： 大学3年(文)
- 居住エリア： 調布市
- 居住形態： 実家暮らし
- 奨学金： なし
- 2026年GWの計画： 国内：伊勢（18切符旅）／予算：4万円以内
- 2026年夏休みの計画： なし（バイト中心）

<結果サマリー>

不便や疲労を通じて「自分の意志行動」を確認。節約や移動の苦勞をSNSネタとして消化し惨めさ回避

1. 導入

根拠： 都内の実家で暮らしながら大学に通い、週3~4日の飲食店バイトをこなす。「外で遊ぶとお金がかかる」という理由で、定期券内や自転車で行ける範囲の知らない駅を歩く「散歩」をコストの良い遊びとして日常に取り入れている。サークル活動も「気が向いた時にだけ行けばいい居場所」として、金銭的・心理的負荷を最小限に抑えた生活を送っている。

推論： 物価高の影響を「コンビニの160円の飲み物を高いと感じる」レベルで日常的に受けており、無意識に「損をしたくない」という防衛本能が働いている。自分の生活を「決められたレールの上」と捉えており、その平穏な日常を維持するために、交際費や娯楽費を極めてシビアに管理・選別している。

FD： 日々の生活を「いかにコストをかけずに納得感を得るか」というゲームのように捉えており、大きな破綻を避けつつ小さな新しさを拾い上げることで、現状の制約（物価高・限られたバイト代）との折り合いをつけている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠： GWは18きっぷで10時間以上かけて伊勢へ向かう。「新幹線は高くて無理」という諦めから出発しつつも、その移動の不便さを「SNSのネタ」に変換することで、安上がりな旅を「あえての選択」としてポジティブに消化している。対照的に夏休みは「どこも高く、満足度が低い」として旅行を排除し、冷房の効いた場所でのバイトに専念する「一点集中」の形をとる。

推論： 「削っている惨めさ」を感じることを最も嫌っており、SNSへの投稿は単なる自慢ではなく、不便な旅に「価値がある」という証明を与えるための不可欠なプロセスとなっている。高い時期に無理をして旅行に行かない決断を「賢い選択」と定義することで、経済的制約による諦めを自己コントロール感へと置き換えている。

FD： 旅行を「目的地での体験」だけでなく「低コストでいかに物語性（ネタ）を作れるか」というプロセス全体の構築として捉えており、SNS での反応がコストに対するリターンを補完する構造になっている。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠： 旅行を「生活の帳尻合わせ」と呼び、日々の細かい節約で溜まったストレスを、一気に吐き出すことで「このために頑張っている」と自分を納得させている。デジタル旅行には否定的で、「身体的なしんどさ」や「足が棒になる感覚」があって初めて、自分の 20 代が「ただの節約の記録」で終わらない、誰にも奪われない資産になると考えている。

推論： 将来的にさらなる経済的負担増を予見しており、中途半端な贅沢は淘汰されると分析している。その中で、あえて効率を捨てて「自分の足でその場に立つ」ことに固執するのは、全方位でタイパやコスパを追求し続けることへの無意識の恐怖と、実在感を失いたくないという生存本能に近い欲求の表れである。

FD： この対象者にとって旅行とは、効率化され尽くした日常から一時的に脱走し、不便さや疲労という「負荷」を通じて、自分が確かに自分の意志で動いていることを再確認するための、最も重い「自己投資」である。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠： 「コンビニの飲み物代」を惜しむ一方で、半年分の貯金を 18 きっぷの旅に投じる。移動の苦労を「ネタ」として SNS に公開し、デジタルでは得られない「身体的なしんどさ」を求めて伊勢へ向かう。夏休みは現実的に稼ぎに徹するという、極めて計画的でドライな資源配分を行っている。

推論： 一見すると「コスパ重視の若者」だが、その本質は「意味のない我慢」を徹底的に拒絶し、自分が投じたリソース（金・時間・疲労）に対して最大級の「納得感」と「記憶の資産」を回収しようとする、極めて主体的なリアリストである。内的矛盾に見える行動も、すべては「惨めさの回避」と「実在感の確保」という天秤の上で整合性が取れている。

FD： 2026 年の 20 代は、社会の閉塞感や経済的制約を嘆くのではなく、それらを「前提条件」として飲み込んだ上で、あえて不便さや過酷さを「コンテンツ化」して楽しむという、タフで戦略的な旅行観を持っている。彼らにとって旅行は「キラキラした消費」ではなく、平坦な日常を生き抜くための「自分への説得材料」として機能している。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、ありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みをどう過ごされているかなど、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。リラックスしてお答えいただければ幸いです。

まずは、今のご自身の生活環境について、少し詳しく教えていただけますか？

【対象者】 あ、よろしくお願いします。生活環境……そうですね、今は大学3年で、文学部に通っています。調布の実家から大学に行ってるんですけど、まあ、普通の大学生というか。基本は大学の授業に出て、終わったらバイトに行くか、たまにサークルに顔を出すかって感じの毎日です。

【インタビュアー】 大学とバイト、サークルの往復という感じなのですね。普段の休日は、どんなふうに過ごされていることが多いのでしょうか。

【対象者】 休日は……そうですね、基本はバイトを入れてることが多いかもしれません。週に3回か4回くらい、近所の飲食店に入って。それ以外の空いた時間は、家でゆっくりしたり、たまに友達と新宿とかに出て遊ぶくらいですかね。

【インタビュアー】 「家でゆっくり」とのことですが、具体的にはどんなことをして過ごされているんですか？

【対象者】 最近は動画配信サービスで映画を観たり、あとは本を読んだり。文学部なんで、一応課題とかもあったりして。あとは、スマホいじってたら一日終わっちゃうこともよくあります。SNS 見たり、YouTube 見たりとか、そんなに特別なことはしてないですね。

【インタビュアー】 なるほど。最近、何か個人的にハマっていることなどはありますか？

【対象者】 ハマっていること……あ、最近は少し「散歩」というか、知らない街を歩くのが好きかもしれません。別にどこか遠くに行くわけじゃなくて、定期券内とか、ちょっと自転車で行ける範囲で、あえて降りたことない駅で降りて歩いてみる、みたいな。

【インタビュアー】 「あえて降りたことない駅で降りてみる」というのは、何かきっかけがあったんですか？

【対象者】 いや、特には……。ただ、最近物価も上がってるし、外で遊ぶとお金かかるじゃないですか。でもずっと家にいるのも飽きるし。散歩なら、ペットボトルの飲み物代くらいで結構時間が潰せるし、新しい発見があったりして、コスパいいなと思って始めました。

【インタビュアー】 今の「コスパがいい」というお話について、もう少し詳しく教えてください。ご自身にとって、何がどう満たされると「コスパがいい」と感じるのでしょうか。

【対象者】 そうですね……。お金をかけずに「今日一日、何か新しいものを見たな」という実感が持てることですかね。飲み会とかに行くと、一晩で5,000円とか飛んでいくじゃないですか。それと比べると、数百円で知らない景色が見られるのは、自分の中ではすごく納得感があるというか、効率がいい遊びだな、って感じです。

【インタビュアー】 ありがとうございます。ちなみにご実家にお住まいとのことですが、ご家族構成を伺ってもよろしいですか？

【対象者】 父と母と、あと高校生の妹がいます。4人家族ですね。

【インタビュアー】 ありがとうございます。それから、先ほど「たまに顔を出す」とおっしゃっていたサークルについても詳しく伺いたいのですが、具体的にどのような活動をされているサークルなんで

すか？

【対象者】 あ、映画研究会……って言うても、自分たちで撮るガチな方じゃなくて、みんなで集まって映画を観て、そのあとダラダラ感想を言い合うだけの、いわゆる「鑑賞サークル」です。

【インタビュアー】 「ダラダラ感想を言い合うだけ」とのことですが、そこに顔を出すのは何か理由があるのでしょうか。

【対象者】 うーん、一人で観るのも好きなんですけど、たまに誰かと喋りたくなるんですよね。でも、体育会系みたいに毎週絶対参加！みたいなのはしんどいし、お金もかかるじゃないですか。今のサークルは幽霊部員も多いし、気が向いた時にだけ行けばいいので、自分にはちょうどいい「居場所」って感じです。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 ありがとうございます。では、今年の大規模連休の過ごし方について伺いたいのですが、まず、もうすぐ始まるゴールデンウィークの予定は何か立てられていますか？

【対象者】 GWは、友達と2人で伊勢の方に行こうかなと思ってます。2泊3日くらいの予定です。

【インタビュアー】 伊勢に行かれるんですね。そこまでの移動手段や、現地での過ごし方など、具体的なプランを教えてくださいませんか？

【対象者】 移動は、青春18きっぷを使おうと思ってます。各駅停車を乗り継いで行くやつです。調布を早朝に出て、一日かけて向かう感じですね。宿は、初日はゲストハウスを予約しました。2日目は、ビジネスホテルというか、安めのところを。アクティビティは……基本はお参りしたり、おかげ横丁で食べ歩きしたり、あとはさっき言った散歩の延長みたいな感じで、適当に街を歩くくらいだと思います。

【インタビュアー】 18きっぷで一日かけて移動されるとのことですが、今回、新幹線や特急ではなく、あえて「各駅停車」という手段を選んだのはどうしてですか？

【対象者】 やっぱり一番は安さですね。今、新幹線とか高くないですか？名古屋まで行くだけでも結構するし、そこからさらに近鉄とか乗ると、交通費だけで2~3万飛んじゃう。18きっぷなら1日分で2,500円くらいじゃないですか。浮いた分を、現地で美味しいものを食べるのに回したほうがいいなと思ったんです。

【インタビュアー】 「交通費を浮かせて食べ歩きに回す」という優先順位なのですね。宿についても、ゲストハウスと安めのホテルを選ばれたとのことですが、宿泊先を選ぶ際に基準にしたことはありますか？

【対象者】 基準……うーん、「寝られればいい」っていうのが本音です。どうせ昼間はずっと外にいるし。ただ、あまりに汚いのは嫌なので、清潔感があるかどうかの口コミはめっちゃ見ました。ゲストハウスは、個室じゃなくてドミトリー（相部屋）なんですけど、それも安く済ませるためです。

【インタビュアー】 口コミの清潔感は重視しつつ、安さを優先してドミトリーを選ばれた。このGWの旅行全体で、予算はだいたいどれくらいを想定されていますか？

【対象者】 全部込みで、4万円以内には収めたいなと思ってます。交通費、宿泊費、食費、全部合わせて。

【インタビューア】 ありがとうございます。一方で、夏休みの方はいかがでしょうか。何か計画はありますか？

【対象者】 夏休みは……特に旅行とかの予定はないです。基本、バイトをガッツリ入れるつもりです。

【インタビューア】 夏は「旅行なしでバイト中心」とのことですが、それは何か理由があるのでしょうか。

【対象者】 まあ、GWに少しお金使っちゃうっていうのもあるし。あと、夏ってどこ行っても高いし、暑いじゃないですか。20代の夏休みって、なんかキラキラした旅行に行かなきゃいけない雰囲気ありますけど、正直、今の物価で夏に遠出するのはしんどいなって。それなら、冷房の効いたバイト先で働いて、後期に向けて貯金したほうが賢いかな、って思っちゃいますね。

【インタビューア】 「夏に遠出するのはしんどい」「バイトの方が賢い」と感じられるのは、何か具体的な経験や、今の生活費との兼ね合いなどがあるのでしょうか？

【対象者】 去年、夏に友達と海の方に行ったんですけど、宿代も高いし、電車も混んでるし、結局どこ行ってもお金がかかる割に満足度が低かったんですよ。今のバイト代って、時給は少し上がってますけど、コンビニとかで買うものも全部高くなってから、実質あんまり余裕がないんですよ。だから、無駄な贅沢はしたくないというか。

【インタビューア】 去年の経験から、費用対効果のようなものをシビアに考えられているのですね。GWに伊勢へ行くことと、夏にバイトを優先することの「バランス」については、どのように考えて決められたんですか？

【対象者】 バランスというか……「年1回は、ちょっとした『非日常』があればいいかな」っていう感じです。それが僕にとってはGWの伊勢で。そこでお金を使うから、夏はしっかり稼ぐ。全部の休みに予定を詰め込む余裕はないので、どこかで一点集中させるしかないっていうのが正直なところなんです。

【インタビューア】 「一点集中」という言葉が出ましたが、去年の2025年と比べて、今年の計画で意識的に変えたことや、あるいは社会情勢的に「変えざるを得なかったこと」は何かありますか？

【対象者】 うーん、去年より「タイパ（タイムパフォーマンス）」より「コスパ」というか……「安く済ませるための工夫」を当たり前にするようになった気がします。去年までは「新幹線で行けば楽じゃん」って思ってたけど、今年は「10時間かけても安く行けるなら、それもまた思い出かな」って自分を納得させてる部分があるかもしれません。そうしないと、旅行自体が選択肢から消えちゃうので。

【インタビューア】 今回の旅行先を「伊勢」に決めた理由や、その経緯についても詳しく伺いたいのですが、一緒に行かれるお友達とはどのように相談して決まったんですか？

【対象者】 あー、もともとは「どこか遠くへ行きたいね」って話を大学の学食でしてて。最初は北海道とか福岡も出たんですけど、飛行機代を調べたらGWは片道だけで3万とかして……「あ、これ無理だわ」って速攻で諦めました（苦笑）。それで、「18きっぷで行ける範囲で、まだ行ったことなく、かつ充実感があるところ」っていう条件で絞っていった感じです。

【インタビューア】 「充実感があるところ」という条件についてですが、伊勢のどういった部分にその充実感を期待されたのでしょうか。

【対象者】 なんて言うか……伊勢神宮って、日本人なら一度は行っておくべき場所みたいな、独特の「強さ」があるじゃないですか。散歩の延長で街を歩くのが好きって言いましたけど、せっかく時間をかけて行くなら、誰に言っても「あ、あそこね」ってわかるような、納得感のある目的地がいいな

と思って。友達も「伊勢なら食べ歩きも楽しそうだし、18きっぷの修行感もネタになるよね」って同意してくれました。

【インタビュアー】 「18きっぷの修行感もネタになる」というお話ですが、友達同士での相談はLINEか何かで？

【対象者】 基本はLINEですね。インスタのDMで流れてきた伊勢のグルメ動画を送り合ったりして。「ここ美味しそう」「でもここ、GWは並ぶだろうね」とか。具体的なルートとか宿の候補は、僕がGoogleマップと予約サイトで調べて、「ここならこの金額でいけるけどどう？」ってリンクを投げて、最終的に大学で会った時に「じゃあこれで」って決めた感じです。

【インタビュアー】 ご自身が調べて候補を出されたのですね。予算管理や、プランニングの主導権はどちらかというご自身が持たれている感じでしょうか？

【対象者】 そうですね。僕の方がわりと「損をしたくない」という気持ちが強いのもかもしれません。友達は「いいよ、任せるよ」ってタイプなので。自分で調べたほうが、納得いく安さで、かつ変な宿を引かずに済む安心感があるんですよ。

【インタビュアー】 お友達が言ったという「修行感もネタになる」という言葉についてですが、それは具体的にどういう意味だと捉えていますか？

【対象者】 あー、なんて言うんですかね。今の時代、新幹線でパッと行って綺麗な写真を載せるのって、正直誰でもできるじゃないですか。でも、あえて18きっぷで10時間以上かけて、お尻が痛くなりながら移動するのって、逆にちょっと面白いというか。「自分たち、こんなバカなことやってるわ」という自虐も含めた面白さ、みたいな。

【インタビュアー】 「自虐も含めた面白さ」ですか。

【対象者】 はい。インスタのストーリーとかに「今ここ。まだ静岡(笑)」みたいに載せると、見る側も「まだそこにいるのかよ」って反応しやすかったりする。単なる綺麗な景色だけじゃなくて、その「苦労してる過程」自体がコンテンツになるというか……。そういう意味での「ネタ」ですね。

【インタビュアー】 なるほど。その「ネタになる」というお友達の意見に対して、ご自身も「そうだね」と同意された感じだったのでしょうか。

【対象者】 そうですね。僕も「確かにね」と言いました。正直、楽をしたい気持ちもゼロじゃないですけど、今の物価高で普通に旅行に行こうとすると、どうしても「削ってる感」が出て惨めになりそうじゃないですか。でも、それを「あえて過酷な旅を楽しんでいる」という「ネタ」に変換しちゃえば、安上がりなこともポジティブに捉えられる。自分を納得させるための材料としても、その言葉はしっくりきたんだと思います。

【インタビュアー】 「削ってる感」からくる惨めさを避けるための「ネタ化」という側面もあるんですね。

【インタビュアー】 ということは、その「18きっぷでの移動」を含めて、インスタのストーリーなどにアップすることは、最初から前提としてあったのでしょうか。

【対象者】 うーん、「前提」というと少し大げさかもしれませんが、無意識にはあったと思います。わざわざ18きっぷで行くのに、誰にも言わずに黙々と移動するだけっていうのは、今の自分たちからするとちょっと考えにくいというか。

【インタビュアー】 「考えにくい」というのは、どういう感覚に近いですか？

【対象者】 なんて言うか、せっかく自分の時間とお金を使って、しかもあえてしんどい思いをしてるわけじゃないですか。それを自分たちだけで完結させちゃうのは、もったいない感じがしちゃうんですよ。誰かに見てもらって、「うわ、大変そう」「バカだな」って反応をもらって初めて、その移動時間も「価値があるもの」として消化できるというか。

【インタビュアー】 「反応をもらって初めて価値になる」のですね。では、もし SNS がこの世になかったとしても、同じように 18 きっぷでの伊勢旅行を選んでいたと思いますか？

【対象者】 ……あー、それは、どうだろう。正直に言うと、選んでないかもしれないです。SNS がなかったら、もっと普通に、新幹線で行ける距離の近場にするか、そもそも旅行自体に行かないでバイトしてた気がします。やっぱり、この「不便さを楽しんでいる自分」を外に出せるっていうのが、18 きっぷ旅をやる上での大きな動機になってるんだと思います。

【インタビュアー】 なるほど。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 今後の旅行について伺います。今、具体的に「やってみたい」と思っている旅行はありますか？

【対象者】 やってみたい旅行……。うーん、いつかは海外に行ってみたいっていうのはあります。ヨーロッパとか。でも、今の円安とか物価を見てると、現実味がないというか、今はまだいいかなって思っちゃいますね。国内なら、今回みたいな「移動自体を楽しむ」ような旅を、別の方面でもやってみたいです。

【インタビュアー】 今回「18 きっぷ」を使われますが、こういった手段での旅行をどう捉えていますか。また、YouTube で絶景を見たり、イマーシブ型の施設で体験したりする「デジタル旅行」については、どう感じますか？

【対象者】 18 きっぷの旅は、僕にとっては「コスパよく特別感を出すためのツール」です。さっきの「ネタ」の話もそうですけど、お金がないなりに楽しんでる自分を肯定できるというか。デジタル旅行に関しては、正直「別物」だと思っています。YouTube で綺麗な景色を見るのは、あくまで「下調べ」とか「暇つぶし」であって、それを旅行だと思ったことはないです。

【インタビュアー】 「別物」というのは、具体的に何が違うのでしょうか。

【対象者】 やっぱり「身体的なしんどさ」があるかないかじゃないですか。18 きっぷで 10 時間座りっぱなしとか、現地で歩き回って足が棒になるとか。そういう「負荷」があって初めて、後で思い出した時に「あの時あんなことしたな」っていう実感が残る。デジタルは楽ですけど、何も残らない気がします。

【インタビュアー】 今の「実感が残る」というお話に関連して、改めて伺います。あなたにとって「旅行」とは何ですか？

【対象者】 「生活の帳尻合わせ」……ですかね。普段、調布と大学の往復で、バイトして節約してっていう、決められたルールの上を歩いている感じがするんです。その日常を壊さない程度に、でも確実に「外側」に出たっていう証拠を自分に与えるための儀式、みたいな。

【インタビュアー】 「生活の帳尻合わせ」「儀式」という言葉について、もう少し詳しく教えてください

い。

【対象者】 毎日、コンビニで10円高いおにぎりを買うのを我慢したりしてるわけですよ。そういう小さい節約を積み重ねると、たまに「自分は何のために頑張ってるんだっけ？」ってなる。その時に、旅行っていう「非日常」にドカッとお金と時間を使うことで、「このために普段節約してるんだ」って自分を納得させる。そうやってバランスを取らないと、日々の生活がただの作業になっちゃう気がします。

【インタビュアー】 今後、さらに物価が上がったり、社会保険料の負担が増えたりといった経済的な制約が予想されます。その中で、あなたの「旅行」はどうなっていくと思いますか？

【対象者】 もっと「二極化」すると思います。本当に行きたい一箇所に絞って、そこに行くためのプロセスを今回みたいに極限まで削るか、あるいは回数を極端に減らすか。「なんとなく一泊二日で温泉」みたいな、中途半端な贅沢が一番消えると思います。

【インタビュアー】 「中途半端な贅沢は消える」という予想に対して、ご自身はどう感じていますか。

【対象者】 冷静に「しょうがないな」って受け止めてます。不満を言ってもお金が増えるわけじゃないし。ただ、そうなった時に「どこにも行けない」ってなるのだけは嫌なので、知恵を使って安く済ませる技術……例えば今回みたいな18きっぷとか、ポイント活用とか、そういうのを必死に探すようになるんだろうなと思います。

【インタビュアー】 そうした制約が強まる中でも、「これだけは譲れない」「これだけはやりたい」と思うことはありますか？

【対象者】 「自分の足でその場に立つこと」だけは譲りたくないです。どんなにデジタルが進化して、VRで伊勢神宮に行けるようになってても、実際に汗をかいて、現地の空気を吸って、不便な思いをしながら辿り着くっていう体験だけは、削りたくない。それがなくなったら、それこそ本当に「動画を見るだけの人生」になっちゃう気がするんです。

【インタビュアー】 なるほど。少し意地悪な質問かもしれませんが、青春18きっぷを利用した旅に対して、「時間をもったいない」「疲れそう」「その分早く現地に着いて休んだり動いたりしたい」という意見も伺います。それに対して、どう思いますか？

【対象者】 ……まあ、そうですね。正直、自分でも「無駄だな」って思う瞬間はあります。でも、今の僕らからすると、タイパを重視して新幹線でパッと現地に行くのって、逆に「お金で時間を買える余裕がある人の遊び」に見えちゃうんですね。

【インタビュアー】 「余裕がある人の遊び」ですか。

【対象者】 はい。もちろん、現地での時間を最大化するのも一つの正解だと思うんですけど、僕にとっての旅行は「目的地で何をやるか」だけじゃないんです。10時間電車で揺られて、景色が変わっていくのを眺めたり、尻の痛みに耐えたりする。その「不自由な時間」も含めて、普段のバイト漬けの日常から切り離された感覚になれるというか。

【インタビュアー】 「不自由な時間」が日常からの切り離しになる、と。

【対象者】 そうですね。今の生活って、スマホ一つで何でもすぐ手に入るし、タイパ重視で効率ばかり求められるじゃないですか。でも、あえて効率を捨てて「移動すること自体にエネルギーを使う」ことで、ようやく「自分は今、特別なことをしている」って実感が持てる。だから、「時間をもったいない」っていう意見は、ある意味で「その通り」なんですけど、その「もったいないこと」をあえてや

る贅沢、みたいな感覚なんです。

【インタビュアー】 「効率を捨てるのが贅沢」という感覚なのですね。一方で、「疲れそう」という点についてはいかがですか？

【対象者】 疲れますよ（苦笑）。でも、その疲れはバイトでレジ打ちして疲れるのとは、種類が違うとか。心地よい疲れとか……。 「これだけ疲れたんだから、伊勢で食べる赤福は絶対に美味しいはずだ」 っていう、自分への言い訳みたいなものですね。楽をして手に入れたものより、苦勞して辿り着いたものの方が価値があるって思いたい。そうじゃないと、お金がない今の自分の状況が、ただの「我慢」になっちゃうからかもしれません。

【インタビュアー】 ありがとうございます。もう一つ、ご実家にお住まいでアルバイトをされているというと、自由になるお金にはそこまで苦勞されていないイメージもあります。具体的に、月々自由になるお金はどのくらいあるのでしょうか。

【対象者】 あー、まあ、家賃がかからない分は確かに助かってますけど、そんなに余裕があるわけじゃないですよ。バイト代はだいたい月によりますけど、8万から、入って10万いかないくらいです。

【インタビュアー】 その8万から10万弱という金額は、主にどのようなことに使われているんですか？

【対象者】 まず、携帯代とか自分のサブスク代で1万くらい。あと、昼飯代とか友達との交際費、趣味の本とか映画で4万くらいは消えます。残りの3~4万を貯金に回してるんですけど、これ、将来のためっていうより「旅行みたいな大きい出費」とか「PCが壊れた時の予備」みたいな感じなので、常にカツカツな感覚はありますね。

【インタビュアー】 「常にカツカツな感覚」というのは、具体的にどういった場面で感じますか？

【対象者】 例えば、コンビニで飲み物を買うときも「あ、今160円か……高いな。家の近くのドラッグストアなら90円なのに」とか、いちいち考えちゃう時です。実家だからといって、親に「旅行代貸して」なんて言えないし、自分のお金でやりくりしなきゃいけない。物価が上がってる分、昔の大学生より「自由に使えるお金」の価値が目減りしてる感じがして、全然「余裕がある」とは思えないですね。

【インタビュアー】 物価高による「お金の価値の目減り」を実感されているのですね。その限られたやりくりの中で、今回のGWに数万円を投じるというのは、ご自身にとってどのような決断だったのでしょうか。

【対象者】 うーん、正直「半年分の貯金を一気に吐き出す」みたいな感覚です。だからこそ、新幹線なんか使えないし、18きっぷで移動時間も「コンテンツ」にしないと元が取れない。実家で生活が保証されているからこそ、せめて遊びの部分だけは自分の稼ぎの中で「無理してでも何かを成し遂げたい」っていう、妙なプライドみたいなものがあるのかもしれない。

【インタビュアー】 最後に改めて伺います。そこまで切り詰めたり、不自由な思いをしたりしてでも、それでも旅行に行きたいのはなぜだと思いますか？ 旅行に行かないと得られない何か、そこにはあるのでしょうか。

【対象者】 ……うーん。一言で言うと「自分が動いている感覚」ですかね。 普段の生活って、調布の家から大学に行って、同じ場所でバイトして、スマホで流れてくる動画を見て……。それって、効率的ですけど、自分の世界がどんどん狭くなって、自分が止まっているような感覚になるんです。

【インタビュアー】 「自分が止まっているような感覚」ですか。

【対象者】 はい。でも、旅行に出ると、否応なしに知らない場所に放り出されるじゃないですか。電車の乗り換えを調べたり、知らない街の空気を吸ったり、自分の足で歩き回ったり。そういう「面倒なこと」を全部自分でやることで、ようやく「あ、自分はちゃんと生きてるな」って実感できる。

【インタビュアー】 「ちゃんと生きてる実感」というのは、日常では得られないものなのでしょうか。

【対象者】 得られなくはないですけど、強度が違うというか。SNSとかデジタルで何でも見られる時代だからこそ、逆に「実際にそこに行った」という事実だけが、誰にも奪われない自分だけの資産になる気がするんです。将来、もっと自由にお金が使えなくなるかもしれないし、社会に出たらもっと時間がなくなるかもしれない。だからこそ、今のこの不自由なやりくりの中で「あそこに行った」という記憶を刻んでおかないと、自分の20代がただの「節約とバイトの記録」だけで終わっちゃいそうで。それが怖い、っていうのもあるかもしれません。

【インタビュアー】 本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。お聞きしたいことはすべて伺うことができました。お話しいただいた内容は、今後の参考にさせていただきます。